

特集

アスミーとみつけよう!

となりのSDGs

今年度の『FUTURE VISION』は、皆さんと一緒にSDGsに関わることを考えてきました。

最終号の今号では、アスミーが紙面を飛び出して、SDGsにつながる活動をしている人たちにお話を聞きました。

言の葉協会がある京都で、路地の奥を探検したら、自然体でSDGsに向き合っている人たちに会えましたよ。

1 「おもしろい」がサステナブル? P.2 ~ P.3

2 mamē-eco プロジェクト P.6 ~ P.7



「おもしろい」がサステナブル?

株式会社修美社
やましたまさき
山下昌毅社長

「今年、美しい本づくりを目指し評価する、出版業界で唯一の賞『造本装幀コンクール』で主要三賞を初めていただきました。自費出版でこだわる本づくりの依頼も多く、作家と向き合っ一緒に考えて楽しんで作ることを心がけています。」



お客様の要望に寄り添って、二人三脚で作上げるモノ作り。その魅力を語ってくれたのは、京都で「おもしろい」印刷を追求する印刷会社、修美社さんの山下さん。室内には個性的な紙製品や、ふつうの本屋さんではあまり見かけられないような、手の込んだデザインの本がずらり。そんなものづくりへのこだわりにあふれた空間で、SDGsにつながる「おもしろい」取り組みについて、アスミーがいろいろお話を聞いてきたよ!



ワンプ袋プロジェクト

循環する「モノ」と「仕事」

「『ふつうの運送会社の袋とは一味違う、なにかあたらしい通販袋を考えられないか』というお話があったんです」京都で本店をオープンしてから、20年以上フェアトレード商品を扱ってきたショップ、シサム工房。SDGsの考えも、早くから社内で浸透させてきたといいます。

そんなシサム工房さんから、「通販でお客さんに届ける袋を、運送会社で使われているものでなく、シサム工房オリジナルにしたい」という要望が山下さんに寄せられました。

「じゃあ…ワンプでやりませんか?というところから、プロジェクトが始まったんです」

山下さんのアイデアは、「ワンプ」を通販用の袋に変身させることでした。

『ワンプ』って?

みんなは「ワンプ」が一体どんなものか知ってるかな。あんまり聞きなれない言葉だけど、ワンプは、紙屋さんや印刷会社が紙類をつつむときに使う、包装用の茶色い紙のこと。内側にツルツルのはっ水加工がされていて、湿気にもつよくて耐久性バツグン!紙をあつかっている会社の必須アイテムだよ。

ただ、フィルムでラミネート加工してあるからリサイクルできなくて、毎日たくさんのワンプが廃棄されちゃうんだって…。

そんな、本来なら捨てられるはずのワンプを、配送用の袋としてもう一度活躍させる。これが、「ワンプ袋プロジェクト」なんだ!



さてこのプロジェクト、循環するのは「モノ」だけではありません。ワンプを紙袋に作り上げるのは、福祉施設の方々です。



「『手を動かすことが、障害のある方のお仕事になればいいよね』という話になって、シサム工房さんがもともとお付き合いのあった施設にお願いしています。それも、しっかり“仕事”として循環する仕組みができています。うちも、ボランティアではないんですよ」

修美社さんは福祉施設にワンプを「販売」して、シサム工房さんは完成した紙袋を施設から「購入」する。ボランティアじゃなくて、お金のやりとりが発生しているから、持続的に活動できるサイクルができていよ。ワンプ袋プロジェクトは、「モノ」だけじゃなくて、「仕事」の循環も生み出しているんだ。

実際のワンプ袋がこちら!



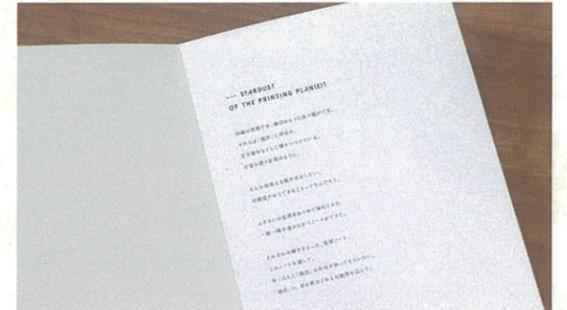
廃棄されるはずだったワンプが、配送袋として生まれ変わりました。

星屑ノート

SDGsのことを考えてやってる、ってわけでもないんです

ページをめくると、1枚1枚違った表情の紙があらわれます。パール調のきらきらした紙、和紙のような手触りの紙、表面に光沢のあるちょっと分厚い紙…いろいろな紙が、一冊に閉じ込められています。

「『星屑ノート』という、紙出を1枚ずつ組み合わせて作ってあるんです」



中身に使われる紙は、一冊一冊手作業でピックアップされるという星屑ノート。紙の種類や順番はランダムで、見ているだけでも楽しい、遊び心にあふれたノートです。

「紙出」は、紙の形をととのえる(断裁する)過程でうまれる余り紙のこと!もちろん一般に流通する紙と品質は同じだけど、ほとんどがどうにもならず行き場を失ってらんだって…もったいないね。星屑ノートは、そんな紙出をうまく活用したアイデアグッズなんだ。それでも大量生産の製造業だし、製品をつくればつくるほど、紙出みたいに無駄になってしまうものがどうしても出てきちゃうよね。山下さんは、どんなふうに考えているのかな。

「みんな、気になっているとは思うんです。気にはなっているけど、仕方がない。そうしていくうちに、またどんどん増えていく。うちはそれを、ちょこっとだけやっているという感覚です」

アイデアにあふれたプロジェクトも、あくまで自然な取り組みであるという山下さん。

「『SDGsに関連することは、やってもやっても追いつかない』という現状はありますよね。向き合いすぎるのも、大変なことだと思います。SDGsは意識の中に持っておきながら、自分たちができることを、無理しない範囲で取り組んでいけたら…と考えています」

「おもしろいこと」をスタートに、いろんなプロジェクトに取り組む山下さん。肩の力が抜けた自由な発想が、サステナブルの鍵なのかもね。

